

# 平成14年度石川県保育士試験問題

## 発達心理学（その1）

〔解答は全て解答用紙に記入すること。〕

- 1 次の各年齢段階について、下記の語群よりその段階にあてはまるもの、認められるものすべてを選び、その番号を記入しなさい。  
また、2つの段階にわたって認められたりその段階であると明確に断定できないと思われるものには、その両方の年齢段階にその番号を記入することとし、あてはまるものが何もない年齢段階には「なし」と記入しなさい。

0—2歳

2—4歳

4—6歳

6歳以降

### 語群

1 循環反応	2 ギャングエイジ	3 具体的操作	4 表象のはじまり	5 一語文発話
6 感覚運動的知能	7 メタ認知	8 奥行き知覚の成立	9 第一反抗期	10 二次的ことば
11 外言と内言の分化	12 直観的思考			

- 2 以下の各記述にもっとも関係の深い用語を下記の語群より選び、その番号を記入しなさい。

- (1) ことばだけでなく、その場の状況等の助けも借りて、使ったり理解したりする。
- (2) 自己中心的ではなく他者の視点からも考える。
- (3) 発達には様々な環境が作用し、それらの環境も相互に影響しあっている。
- (4) 有能な他者からの援助を受けながら課題を解決しつつ成熟する。
- (5) 新しい事物等について、自分のスキーマを適用して理解・解釈する。

### 語群

1 発達の最近接領域	2 個体と環境の相互作用	3 母性剥奪 (maternal deprivation)		
4 マクロシステム等生態学的環境	5 同化	6 成熟優位説	7 刷り込み	8 役割取得
9 世代間伝達	10 おとなの発達課題	11 一次的ことば	12 二次的ことば	13 外言
14 内言	15 メタ認知			

受験番号

# 平成14年度石川県保育士試験問題

## 発達心理学（その2）

3 次の各用語について、それぞれ下の記述の中で正しい記述の番号をすべて記入しなさい。正しい記述が何もない場合には「なし」と記入しなさい。

家系調査法

- 1 発達に、どの程度環境要因が関与しているかを明らかにする方法である。
- 2 双生児研究法による方が、発達における遺伝・環境要因の関与の程度を明確にできる。
- 3 そこで見出される偏りには、遺伝要因と環境的要因との両方が関与していると思われる。
- 4 そこで見出される偏りには、遺伝要因が関与していると考えられる。
- 5 偏りが見出されても、その発達が遺伝要因によるものか環境要因によるものを特定できない。

愛着

- 1 この成立は、子どもの気質等によって影響されることがある。
- 2 この成立のしかたは、子どもの知的発達にも影響を与える。
- 3 この成立のしかたには、その文化的背景による相違が認められている。
- 4 ストレンジ・シチュエーション法は、この成立のタイプを明らかにする方法である。
- 5 この成立は、刻印付け（刷り込み、imprinting）によると考えられる。

具体的操作

- 1 見え方等によって思考が混乱する。
  - 2 他者の視点から思考することがかなり困難である。
  - 3 保存の概念がまだできていない。
  - 4 扱われる具体物が異なると思考が混乱する。
  - 5 論理的に一貫した思考が可能になる。
- 4 5歳児同士がけんかをしている場面に出会ったとしたら、あなたはその子どもたちにどのように対応するのが適切だと思いますか。「何もしない」こと等を含めて、具体的にどうすることが適切であるかについて、その理由に触れながら簡潔に説明しなさい。
- 5 子どもの発達にとって、自然との接触経験が重要な意味をもつと言われています。これについて、あなたはどのように考えますか。その具体例・理由も挙げながら、発達心理学的視点から述べなさい。

受験番号

# 平成14年度石川県保育士試験解答用紙

## 発 達 心 理 学

1	0 - 2 歳				
	2 - 4 歳				
	4 - 6 歳				
	6 歳以降				
2	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
3	家系調査法				
	愛 着				
	具体的操作				
4					
5					

受 験 番 号	得 点